

「町民と語る会」報告書

開催日時	令和5年11月17日	午後6時30分～午後8時20分
団体等名	立川地区町民と語る会	
場所	立川複合拠点施設 2階 活動室2・3	
出席議員	石川保、齋藤秀紀、吉宮茂、石川武利、加藤將展、渡部伊君子	
	奥山康宏 計7人	
参加人数	4人	
主な「質疑」「意見」「要望」「提言」など	※立川地区町民と語る会との意見交換は、以下のとおり。	
	質問	令和4年度の庄内町における財政規模は137億円と、かなり大きな金額に膨らんでいる。人口の現状をみると、高齢化が物凄い勢いで進んで、人口減少に歯止めがかからない中で、財政面を見た場合、町として適正な財政状態なのか。
	回答	現在の人口から見た場合、一般的に70億円くらいの財政規模が適当なのかもしれない。庄内町は、南北に細長い立地条件や、支所や出張所があり、また町村合併のインフラ整備をした等で、財政規模は大きくなった。市に近い予算を持っているが、町としての財政力はあると認識している。
	質問	風車について、今後、町として風車に関する事業や受入れなど、どのように進めていくか。
回答	現時点で、町が関わる風車の推進、構想は決まっていない。むやみに山の上に建設しても、採算はあわない。平地の田んぼに建てていた時は、風力調査を行い、平均毎秒6m以上の風がないと風力事業の効果は表れない。風車の建設には、自然環境調査も今後は重要になってきている。	
質問	自然エネルギーの太陽光発電について、今後、自治体として取り組む構想はあるのか。	

庄内町議会議長 殿

令和5年11月25日

庄内町議会「町民と語る会」実施要領の規定により提出します。

令和5年度町民と語る会

立川複合拠点施設班

班長 石川 武利

書記 奥山 康宏

「町民と語る会」報告書 (2号様式)

主な「質疑」「意見」「要望」「提言」など	<p>回答 太陽光発電に関する構想・検討について、現時点で持ち合わせていない。</p>
	<p>質問 ペイペイによるキャッシュレス決済ポイント還元を活用させていただいている。他市町の方も庄内町で、ガソリンを積めたり、食事をしたりと有効に利用しているようだ。今後ともこの事業に関しては、継続的に行っていくのか。</p>
	<p>回答 今回庄内町で実施した事業は、遊佐町と11月に重なってしまった。前回実施した時は鶴岡市と重なり、庄内町より還元率の大きい鶴岡市にお客さんを奪われ、苦勞した経験がある。好評であれば、今後もキャッシュレス決済ポイント還元事業を実施することになると思われる。</p>
	<p>要望 林道の整備について、町の管理として本来やらなければならないことと認識しているが、昨今、林道整備はされていない。林道整備をしっかりとしていた頃は、鳥獣被害対策としてもクマやイノシシ等獣と人の、すみ分けはできていた。それぞれの生息地を脅かすことはなかった。林道組合が解散してから、林道の痛みがひどくなってきている。</p>
	<p>また、植えてから50年以上の伐採期を迎えた杉の木がたくさんあるので、林道の整備、検討を早急をお願いしたい。</p>
	<p>意見 立川中学校柔道部の保護者の立場から発言するが、庄内町の武道館をどうするか、今後建設予定とされている庄内町複合型屋内運動施設について、以下の4点の理由として、建設を進めていただきたい。</p>
<p>一つ目の理由は、立川中学校での今後の活動が難しく、今年の夏は熱中症アラートにより柔道の練習ができなかったこと。</p>	
<p>二つ目の理由は、余目中学校に常設の柔道場がなく、中学1, 2年生では、柔道が必修科目となっていること。</p>	
<p>三つ目の理由は、柔道以外の多用途での活用が見込まれ、エアコン完備のため、災害時の避難所としても利用可能なこと。</p>	
<p>四つ目の理由は、立地条件からビジネスチャンスを生かすことが可能。武道館を簡易の合宿所として活用できるのでないか。</p>	
<p>回答 まだ議会にて、具体的な庄内町複合型屋内運動施設に関する内容は示されていないので、要望として町に伝える。</p>	
<p>質問 令和5年9月議会では、かなり多くの町民が議会傍聴に訪れた日もあった。これからは議会へ、より町民の関心を持ってもらうためにも、日曜日や夜間議会も会期中一日位あってしかるべきではないか。</p>	
<p>回答 定例会は、ネットで生配信している。録画についても、数日後には配信されているので、これらの活用をお願いしたい。</p>	

「町民と語る会」報告書(2号様式)

質問 まちづくりセンターの運営について、今までは行政区の職員が張り付いて、機能的に運営してきたが、現在は、各地域の充て職によるメンバーでの運営となり、手探り状態の中で大変苦勞している。自分たちで物事を考えて、自分たちでプランを練り上げ、それを実行する体制は、なかなか難しい。何か事業・イベントをやって、人がいっぱい集まれば、それで良しとすることではないと思う。全てが町の計画に沿って統一された内容で動いていたものが、各地区にボーンと預けられたことは、不安が大きくなってきていることは事実である。将来的にミニ行政区として、どういった動きをさせていけばいいのか、アイデアがあれば、教えていただきたい。

回答 イベントでの活性化推進は、それだけで疲れてしまう。そうではなく、実務の作業部会などで、地域の人が必要とするものを欲張らないで検討していくことが大事である。身近なテーマを掘り下げていくと、その地域の課題解決に結び付くことにつながるのではないかと。

(以上)

主な「質疑」
「意見」 「要望」
「提言」 など